

平成 20 年度第 2 回被服学教育 F D / IT 活用研究委員会議事概要

- I. 日 時： 平成 20 年 9 月 9 日（火）午後 2 時から 4 時、
- II. 場 所： 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者： 高部委員長、鈴木委員、水谷委員、田中委員、角田委員
井端事務局長、森下、恩田

IV. 議事概要

1. 被服学固有の学士力について

- ・ 本委員会では、10 月末までに学士力に関して、端的で簡潔な表現にまとめ、次に、参考資料 1 にあるように共通の能力、たとえば被服としてどのような能力が必要かを来年度に考えていく。
- ・ 来年度の後半には、分野別の質保証の枠組みについて、目標値を立てて進め、測定手段を明確化し、教員の教育力までも入っていきたい。
- ・ 大学だけでできない場合は、大学間、産業界の連携が必要である。
- ・ 最終的にコアカリキュラムを作りそれを実現するために I T でどのようにクリアできるかを検討し、報告書を作る。
- ・ 社会で被服教育をどう受け止めているのかなど、人材ニーズのマッチングも委員会で検討していきたい。

2. 検討事項

(1) 被服学教育における学士力について

被服学における学士力について検討した結果、下記の 5 項目となった。

- 1) 被服の歴史・文化や役割を理解し、表現する能力を身につけている。
- 2) 人体と被服構造・構成の関係が理解できる。
- 3) 被服材料の特性を理解し、企画設計、着用評価、維持管理ができる。
- 4) 被服関連産業を理解し、社会のニーズを踏まえた活動ができる。
- 5) 被服と環境との関わりを理解し、社会との関連において生活の質を向上させることができる。

(2) 今後の活動について

上記の学士力について一つの項目について 2 から 3 行の説明文をつけて、私情協のインターネットに登録している被服学の教員 83 名にメール配信して意見を求める。委員は 9 月 18 日までに委員長に説明文をメールで送ってほしい。

3. その他

次回の委員会の日程は、事務局が各委員の予定を聞いた上で決める。